

事例20

< 事例概要 >

人工股関節全置換術

- ① 70 歳代前半、体重50 kg 台、関節リウマチがある患者。
- ② リウマチ性股関節症に対し、人工股関節全置換術を施行。
- ③ 寛骨臼は壊死組織で充満し、剥離困難。寛骨臼のドリル孔から出血はあったが、スクルー挿入によるパッキングで止血を試みた。血圧50 mmHg台となり、赤血球液を投与。閉創後の体位変換で腹部膨満に気付き、開腹すると、後腹膜腔内に1,000 ～ 2,000 g の出血、外腸骨静脈に3 ～ 4 cm の損傷あり。新鮮凍結血漿・濃厚血小板を投与したが、出血がコントロールできず、腹部をパッキングして閉創。術中出血量4,800 mℓ。退室時血圧70 mmHg台、心拍数130 回/分台。
- ④ ICU で治療を継続し、帰室約13 時間後に死亡。
- ⑤ 死因は、血管損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。